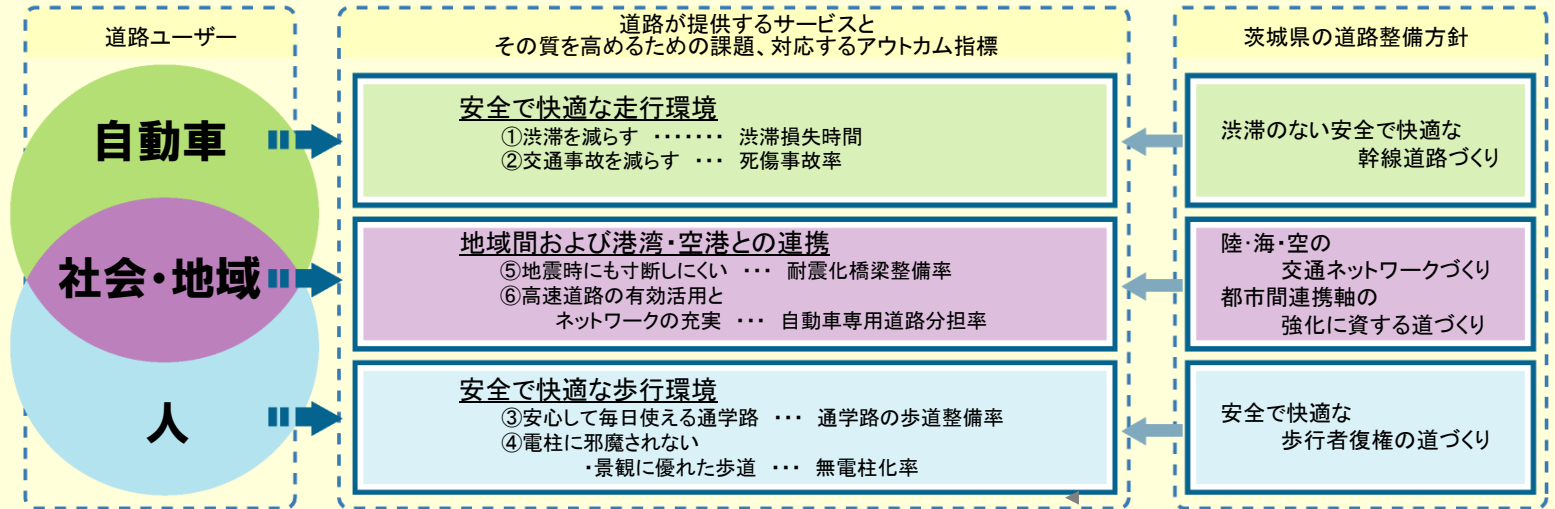


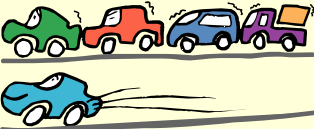
●道路行政マネジメントの取り組みでは、道路を利用する人の立場を踏まえ、道路が提供するサービス(3種)と、その質を高める課題(6種)に分類[右図参照]し、これらを代表して表現するアウトカム指標[下参照]を設定しています。

●ここでは、設定しているアウトカム指標について、平成18年度に策定した成果目標がどのように達成されたかを示すとともに、平成19年度の成果目標を策定します。



1 渋滞を減らす『渋滞損失時間』

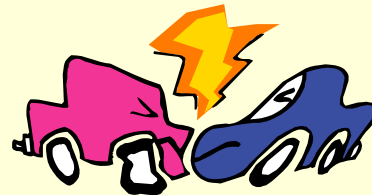
■渋滞により浪費される無駄な時間を意味します。早朝・深夜など空いている時間帯と比較して、朝夕ピーク時など混雑時間帯で余計にかかる所要時間を「浪費される無駄な時間」と考えます。



■渋滞損失時間が減少すると...道路混雑が緩和され、朝夕の通勤時間や営業の外回りに要する時間が短縮することになります。数分の時間短縮でも、道路を利用する多くの人にその効果が及ぶので、地域全体で見ると大きな時間短縮になります。また、道路混雑が緩和し走行速度が向上することで、二酸化炭素、窒素酸化物等の排出量が削減し、環境負荷軽減につながります。

2 交通事故を減らす『死傷事故率』

■車を運転している時に事故に遭う確率を意味します。■死傷事故率が減少すると...事故の危険性が低下することになります。また、事故による渋滞の減少も期待できます。



3 安心して毎日使える通学『通学路の歩道整備率』

■通学路に指定されている道路のうち歩道が整備されている区間の割合です。(国道、県道)
■通学路の歩道整備率が向上すると...より安全に通学することができる児童、生徒が増えることとなります。また、児童、生徒を送り出す保護者の方々も安心することができます。



4 電柱に邪魔されない・景観に優れた歩道『無電柱化率』

■歩行者の比較的多い市街地において、道路の両側とも電柱がなく、歩道がすっきりとして歩きやすくなっている区間の割合です。
■無電柱化率が向上すると...歩道上に電柱の存在する区間が減少することで、歩道をより広く快適に使うことができるようになり、道路の景観も向上します。また、地震により電柱が倒れる心配がなくなります。



5 地震時にも寸断しにくい『耐震化橋梁整備率』

■地震に強くする必要があると判断した橋梁のうち、耐震化補強を実施した橋梁の割合です。
■耐震化が必要な橋梁とは、設計の考え方(設計基準)が古いなど地震に対する抵抗力が小さい橋梁です。

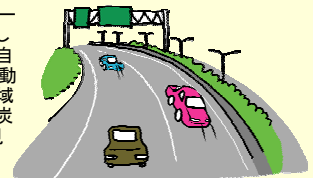


■耐震化橋梁整備率が向上すると...地震時にも寸断しにくい道路ネットワークが確保され、災害後の救助・支援活動を円滑に実施することが可能となります。

※本指標における「耐震化」とは、「落橋防止」「橋脚補強」の実施を指します。

6 高速道路の有効利用とネットワークの充実『自動車専用道路分担率』

■全体の自動車交通のうち、自動車専用道路を利用する交通の割合です。自動車専用道路とは、常磐自動車道や北関東自動車道、東水戸道路などを指します。
■自動車専用道路分担率が向上すると...長距離移動時に高速かつ快適なルートが選択可能になります。また、混雑している一般道から比較的の空いている自動車専用道路に交通量が転換し、自動車専用道路がより有効に使われ、地域全体で見ると速度向上による二酸化炭素、窒素酸化物等の排出量削減が見込まれます。



■平成18年度の達成状況「概況」

- 6課題のうち2課題で、成果目標を達成しました。
目標を達成した課題
「交通事故を減らす」
「高速道路の有効活用とネットワークの充実」
- 目標を達成できなかった指標についても、着実に値は向上しています。
「渋滞を減らす:目標の5割達成」
「安心して毎日使える通学路:目標の9割達成」
「電柱に邪魔されない・地震時に安全な歩道:目標の8割達成」
「地震時にも寸断しにくい:目標の9割達成」

■平成19年度の業績計画「概況」

- 各課題について、これまで同様アウトカム指標の成果目標を設定しました。
- 「高速道路の有効活用とネットワークの充実」については、これまでの取り組みに加え、新たな取り組みを進めます。
『日立地区常磐道社会実験』『東水戸道路社会実験』※高速道路料金割引の実施
- その他の課題については、これまでの取り組みを引き続き推進します。

道路が提供するサービス	サービスの質を高める課題	アウトカム指標	単位	平成17年度	平成18年度			平成19年度
				実績値	目標値	実績値	達成状況	目標値
安全で快適な走行環境	渋滞を減らす	①渋滞損失時間	万人時間／年	10,214	H17年度から325削減 (9,889)	H17年度から159削減 (10,055)	目標の5割達成	H18年度から99削減 (9,956)
	交通事故を減らす	②死傷事故率	件／億台キロ	70.5	H17年度から1.4削減 (69.1)	H17年度から3.5削減 (67.0)	目標達成	(当初目標を1年前倒しで達成) さらなる向上を目指す
安全で快適な歩行環境	安心して毎日使える通学路	③通学路の歩道整備率	%	68.2	H17年度から0.8向上 (69.0)	H17年度から0.7向上 (68.9)	目標の9割達成	H18年度から0.6向上 (69.5)
	電柱に邪魔されない・地震時に安全な歩道	④無電柱化率	%	14.7	H17年度から0.6向上 (15.3)	H17年度から0.5向上 (15.2)	目標の8割達成	H18年度から0.8向上 (16.0)
地域間および港湾・空港との連携	地震時にも寸断しにくい	⑤耐震化橋梁整備率	%	38.2	H17年度から8.0向上 (46.2)	H17年度から7.1向上 (45.3)	目標の9割達成	H18年度から9.9向上 (55.2)
	高速道路の有効活用とネットワークの充実	⑥自動車専用道路分担率	%	8.2	向上を目指す (事業実施中)	H17年度から0.4向上 (8.6)	目標達成	H14年度から1.3向上 H18年度から0.8向上 (9.4)